

## ( 1 2 ) 自動車部品工業

15 / 14 16 / 15 伸び率 10%以上 ● 伸び率 0 ~ 10%  
: 天気図マーク; 伸び率 0 ~ 10% 伸び率 10%以下

### 1 . 企業経営動向

#### (1)需要

平成 1 5 年度の自動車の国内販売は 2 年連続の増加となり、また、輸出についても、北米向けが減少に転じたものの、アジア向けが昨年度に引き続き大幅に増加したことにより、2 年連続の増加となった。その結果、自動車の国内生産は対前年度比 0 . 3 % と 2 年連続の増加となり 1 , 0 0 0 万台を維持している。

このような状況の中、国内の自動車メーカー向け組み付け部品が全体の需要先の 7 割強を占める自動車部品工業における平成 1 5 年度の国内出荷は、国内自動車生産の増加により、前年度出荷額の 1 3 . 5 兆円を上回る規模になったものと推察される。

グローバル市場での競争が一段と熾烈になり、引き続き販売価格の低下圧力、高品質維持のための品質コストの高まりなど、経営環境は厳しさを増しているが、部品メーカー各社は将来に向けての新製品開発や環境・安全関連技術の研究開発等に全力をあげる一方、グループ企業を含めた収益構造や企業体質の強化など更なる経営改革に懸命に取り組んでいる。

#### (2)生産・設備稼働

##### 生産

経済産業省「機械統計調査」によると、平成 1 5 年度の国内の自動車部品生産は対前年度比 3 . 0 % 増加の 6 兆 7 , 7 9 2 億円と 2 年連続の増加となった。

##### 在庫

在庫については、種類によって若干の差はあるものの、自動車メーカーとの連携により必要最低限の在庫水準で推移している。

##### 生産能力・設備稼働率

自動車部品メーカーは生産設備の合理化、工場の集約・再配置等生産体制の再構築を進めており、設備稼働率は改善していると考えられる。

#### (3)企業収益

上場自動車部品メーカー 8 2 社の平成 1 5 年度決算（連結）では、日系自動車メーカーの生産拡大と部品メーカーの新製品の開発、投入や海外自動車メーカーへの拡販等により、売上高については 9 . 3 % の増加となった。また、経常利益についても、自動車メーカーと共同でのコスト低減や部品メーカーの構造改革的な固定費削減等によって販売価格の低下圧力のある程度吸収できたことから、1 6 . 5 % の増益となった。しかしながら、部品メーカーの収益構造は引き続き厳しさを増しており、売上高の増大が利益の増大に結びつく度合いが小さくなって

きている。

#### (4)財務

上場部品メーカー各社の動向を見ると、有価証券評価損等の処理を行うなど、財務体質の改善に取り組んでいる。

## 2．設備投資動向

### (1)これまでの設備投資の推移

自動車部品工業の平成15年度の設備投資実績見込額は、3,154億円で前年度に比べ4.4%の増加となった(14年度-15年度共通企業ベース54社)。これは、国内自動車生産の好調と新型車の投入に伴って、部品メーカーの設備投資が増加したものと思われる。構成比では、モデルチェンジ対応に係る投資の割合が依然として高い状況である。

### (2)平成16年度の設備投資計画

平成16年度の設備投資計画は、2,669億円で前年度に比べ27.5%の増加となった(15年度-16年度共通企業ベース51社)。環境対応や設備の生産能力増強、維持・更新、コストダウン強化のための合理化に係る投資の割合が高くなっている。

## 3．長期資金調達・運用動向

### (1)長期資金運用動向

平成15年度の長期資金運用動向は、短期資金への振込を絞り込み、設備投資と投融資向けを増加させている。平成16年度計画においては投融資向けを絞り込み、設備投資や短期資金への振り替えを増加させる傾向が見られる。

### (2)長期資金調達動向

平成15年度の長期資金調達動向は、社債発行による調達を絞り込み、資産流動化により賄う傾向が見られる。平成16年度計画においては、資産流動化による調度を絞り込み、借入金により賄う傾向が見られる。

( グラフ1：設備投資の前年比の推移 )

